



2020年1月6日

社長年頭挨拶（要約）

日本軽金属ホールディングス株式会社
岡本 一郎

ご安全に。皆さん、あけましておめでとうございます。

はじめに、私たちの水力発電設備の一部である雨畑ダム周辺が、昨年の台風10号、19号により、近年にない大豪雨に見舞われました。結果として、周辺地域に浸水被害を発生させ、地域住民の皆様や関係する皆様に多大なご迷惑をおかけしております。グループ社員一同、このことを深く胸に止め、お詫びの心をもって仕事を進めていきたいと思います。

「安全がすべてに優先する」。日本軽金属グループの目指す安全の姿は、現場に密着した活動を通し、絶対にけがをしない、させない文化をつくりあげることだと考えています。皆さん、危険行為をひとつたりとも許さない、気がついたときに必ず一声かける、そんな仲間に対するやさしさを持ち、自らの働く場所を完全0災職場に作り上げていってください。

さて、中期経営計画初年の本年度は業績予測を下方修正するに至りました。様々なビジネス環境を理由にすることもできますが、私たちが実質的にコントロールできないことで言い訳をしても何も変わりません。昨年来の業績悪化は、私たちのやり方、戦略が、この移り変わる世の中にまだまどうまくフィットしていない、追いついていないと考えるべきです。

2012年日本軽金属ホールディングス創立以来、私たちは右肩上がりですべての活動を記録してきました。私たちの心の中のどこかに、「このやり方でいい。景気の谷が通り過ぎれば、また前と同じように成長路線を享受できる」という変化に対する回避の姿勢がはびこっていないでしょうか？ 今までのささやかな成功に安住した企業グループに待っているのは、退歩、しかも奈落の底への急激な転落の道しかないと考えます。世の中は時々刻々と変化しています。私たちは成長を志し、新たな挑戦を通して自らを変革し続けなければなりません。

私たちのとるべき道は三つあると考えます。一つ目は、「モノづくりの会社」として商品の価値を高め、厳しい競争に打ち勝ち、お客様に日本軽金属グループの商品を選んでもらうこと。そして、シェア拡大を図る。すなわち、「モノづくりの会社」を極めること。二つ目は、「モノ」の強みを追求するだけでなく、「モノ」に付随するソフトの部分、すなわちサービス等も拡充し、事業領域を広げていくこと。細やかな心遣いとおお客様の「潜在的な」欲しいまで踏み込んだ徹底的なマーケットインで、お客様の価値を創造していく。素材業界の常識をはるかに超えたハード、ソフト両面から収益を得る企業グループに変身していくこと。三つ目は、まだまだ需要の増加が見込まれる海外で活動をさらに拡大し、私たちが国内で培った「モノづくり+α」で海外のおお客様のニーズにこたえること。本年もこの三つを同時に行いたく思います。

いずれにしても、昨日と今日が全く同じというルーティーンワークは存在しないと覚悟してください。常に変わる。挑戦し続ける企業グループとして、この厳しい世の中でしぶとく成長を続けていくのです。

昨年私たちは本社を新橋に移転しました。できるだけ多くの事業部門を一つの箱に集め、フリーアドレスを採用することにより、新しい「気づき」が日々次から次へと湧き上がる場を何としても作りたかったのです。沈殿するのではなく、空高く噴き上がるマグマのような圧倒的なエネルギーをそこに存在させたい。不協和音をも含めた喧噪さの中から、私たちの「生き死に」を制する大切なコラボレーションが生まれ、変化を恐れず、活力に満ちあふれた新しい日本軽金属グループを作り上げるという思いがこもっています。

企業は人です。一人ひとりがしっかりものを考え、清々と議論し、手を取り合って未来に向かって進んでいく。一人ひとりがやりがいを感じ、生き生きと活動する。そして、幸せになる。そんな企業グループを作り上げていきたいと今年も強く思います。私たちの強みをしっかり認識し、そしてお客様のお考えをしっかり慮ることにより、「素材メーカー」という自分たちで勝手に課した固定観念の呪縛から

解き放ち、社会に貢献する。そんな企業グループとなるのが理想です。そして、それが少しずつではありますが、実現しつつあることに手ごたえを感じています。

皆さん、本年も「チーム日軽金として、異次元の素材メーカーへ」大きなベクトルのもと、一步一步着実に成長を遂げていきましょう。ご安全に。

本件に関するお問い合わせ：日本軽金属株式会社 広報室
(平日 9:00～17:30 TEL : 03-6810-7160)